

令和5年度 校内研究計画

1 研究主題

自ら学びを進める児童・生徒の育成

～小・中併設校のよさを生かした思考力・判断力・表現力を高める授業を通して～

2 研究主題設定の理由

平成29年3月に告示された「小学校学習指導要領」並びに「中学校学習指導要領」の第1章の「総則」で、「各学校において、『基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かし多様な人々との協働を促す教育の充実に努めること。』」、「各学校において、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を活用するために必要な環境を整え、これらを適切に活用した学習活動の充実に努めること。」と示されている。

それらを受け、本校では「いわての授業づくり3つの視点」、「ユニバーサルデザインの視点」さらに令和3年度より「ICT活用の視点」を校内研究に位置付け、「自ら学びを進める児童・生徒の育成」に取り組んできた。その結果、児童・生徒が主体的に学習に取り組み、基礎的・基本的な知識や技能を身に付けてきている。このことは、各種学力調査（NRT、県学調、全国学調等）の正答率の結果にも反映されている。

しかしながら、上記の各種学力調査における「応用力が必要な問題」、「自分の考えを説明する問題」、「複数の資料を比較して答えを導き出す問題」、「情報を選び、構成を考えて話す問題」、「情報を選び、構成を考えて書く問題」等の正答率が、全国や県の正答率と比べ低い傾向にある。このことから、学習指導要領に示されている「未知の状況にも対応できる『思考力、判断力、表現力等』を育成すること、また、学習の基盤となる「話すこと」「書くこと」の言語能力の育成は本校児童・生徒にさらに必要な資質・能力と捉えている。

よって、前述の教育課題を改善するために研究主題をこれまで通り「自ら学びを進める児童・生徒の育成」としながら、副主題を「小・中併設校のよさを生かした思考力・判断力・表現力を高める授業を通して」とした。

「小・中併設校のよさ」とは、「①小学校職員・中学校職員が学習指導や生徒指導において、一人ひとりの児童・生徒に関わる機会が圧倒的に多いことにより、個に応じたきめ細やかな指導ができること。」「②小・中職員が同じ考え方や視点で児童・生徒の指導ができること。」「③各種行事や集会活動、委員会活動等における『異学年・異校種の交流活動』の機会が多いことにより、目的意識や相手意識をもって『話したり、書いたり』する機会が多いこと。」と捉える。

そういった「小・中併設校のよさ」を生かした指導を行うことで、「未知の状況にも対応できる『思考力、判断力、表現力』」、学習の基盤となる「話すこと」「書くこと」の力を高め、自ら学びを進める児童・生徒を育成することにつながると考えた。

3 研究の目標

小・中併設校のよさを生かした思考力・判断力・表現力を高める授業を通して、自ら学びを進める児童・生徒を育成する。

	9年間を見通した児童生徒像
小 低学年	課題に対し、自分の考えをはっきりもち、伝えたい事柄を表現できる児童
小 中学年	課題に対し、根拠のある予想や仮説から、必要な事柄を選んで表現できる児童
小 高学年	課題に対し、集めた材料を分類したり関係付けたりし、より妥当な考えを表現できる児童
中 1年	課題に対し、集めた材料の共通点や相違点などを整理し、見通しをもって表現できる生徒
中 2年	課題に対し、自分の立場や考えが明確になるように集めた材料を整理し、工夫して表現できる生徒
中 3年	課題に対し、自分の立場や考えを明確にし、多様な考えを想定しながら材料を整理し、分かりやすく表現できる生徒

4 研究の仮説

小・中併設のよさを生かし、「話すこと」「書くこと」を重点的に指導することで、児童・生徒の思考力・判断力・表現力が高まり、自ら学びを進める児童生徒が育成されるだろう。

5 「思考力・判断力・表現力」の捉え方

	活動	具体的な活動
思考力	① 課題を設定する ② 課題の解決に向けて、情報を収集する ③ 集めた情報を比較したり、分類したり、これまでの知識などに関係付けたりする ④ 新しい「意味の体系」を構築する	・これから考えることのねらいを設定し、明確化する ・考えることのねらいに沿って、文章を読んだり、映像を見たり、グラフやデータを分析したり、ものを観察したりするなどして、様々な情報を得る。 ・集めた情報を比較したり、分類したり、これまでに学んだ知識や経験などと共通点や違いを見い出したりして、これまでに築いてきた「意味の体系」と結び付ける ・新しく分かったことを「意味の体系」に位置付ける
判断力	① 課題を達成するための見通しをもつ ② 見通しと得られた情報を関連付ける ③ 情報に重みを付けたり、価値付けしたりする	・考えることのねらいを達成するためには、どのような方法でどのような情報を集めればよいかの方向付けをする ・文章を読んだり、映像を見たり、グラフやデータを分析したり、ものを観察したりするなどして得られた様々な情報を、ねらい達成の見通しと結び付ける ・ねらいを達成するために、重要なもの、意味があるものを選び出す
表現力	① 見通しをもつために表す ② 思考の過程において表す ③ 分かったことを伝えるために表す	・考えることのねらいを達成するためには、どのような方法でどのような情報を集めればよいかを、文章や図などで表す ・思考を進める中で、得られた情報を整理し、そこから分かったこと、考えたこと、疑問に思ったことなどを表す ・様々なはたらきかけで得られた情報を、ねらいに沿ってまとめたり、整理したりして、結果を表す

6 今年度の研究の内容

(1) 授業改善の視点から

ア 共通指導事項

- ① 学習の必要性や見通しをもつことができる学習課題の設定と工夫
- ② 思考力・判断力を育成し、自分の考えを表現するための学習活動の改善・工夫（「話すこと」「書くこと」を重点とする。）
- ③ 児童・生徒が「分かった」「できた」を実感できる振り返り
- ④ 授業内容の理解促進のための、計画的な家庭学習の課題（宿題）の工夫
- ⑤ 諸調査等の分析と対策（N R T・県学調・全国学調等）

イ ユニバーサルデザインの視点から

- ① 授業を「焦点化」するために I C Tを用いる。
ねらいや活動を絞ることで達成感が確認され、学習の主体性や有用感が高まる。
- ② 授業を「共有化」するために I C Tを用いる。
友だちや先生の思いや考えを知り、つながることで思考力や判断力、表現力が高まる。
- ③ 授業を「視覚化」するために I C Tを用いる。
視覚的な理解を大切にし、確かな理解のもとで活動することにより基礎的・基本的な能力が高まる。

I C Tを効果的かつ教科横断的にバランスよく活用し、児童生徒のつまづきをカバーすることで、児童生徒は学習内容を「分かる」「できる」と実感し、自信をもてるようになる。

ウ 小・中連携の視点から

- ① 9年間を見通した系統表の見直しと更新
- ② 中学校教員による小学校への乗り入れ授業の形態と指導内容の工夫（教科担任制の導入）
- ③ 学習規律の再確認（「10 学習のきまり」参照・必要に応じて改善を行う）

(2) その他

ア 同形態（小規模複式）である柳沢小・中学校との交流を図る。

イ 学級懇談時に家庭学習の内容や仕方について保護者と共通理解を図る。

7 研究の年次計画

- (1) 令和3年度… I C T環境の整備, I C T機器の研修, I C T機器を取り入れた授業の理論研究, I C Tを活用した授業実践
- (2) 令和4年度…「思考力・判断力・表現力」を高めるための授業改善の在り方, 柳沢小中学校との連携（互見授業, 研究授業の交流や参加）
- (3) 令和5年度…「思考力・判断力・表現力」（話すこと・書くこと）を高めるための授業改善の在り方, 柳沢小中学校との連携（研究の方向性の確認, 互見授業や研究授業の交流や参加）
- (4) 令和6年度…令和4～5年度の研究を踏まえた「思考力・判断力・表現力」を高めるための授業実践, 柳沢小中学校との連携（授業教科, 日程等の擦り合わせ）
- (5) 令和7年度…令和6年度の実践の改善（学校公開）, 研究の検証, 研究のまとめ, 柳沢小中学校との連携（紀要, まとめ）

8 学習のきまり(現行…平成28年度～)

	1・2年生	3・4年生	5・6年生	中学生
学習準備・態度	・教科書・ノート・鉛筆・消しゴム・赤青ペン(鉛筆)・定規を準備する。 ・チャイム席を守る。 ・始めと終わりのあいさつをしっかりと行う。 ・名前を呼ばれたら「はい」とはっきり返事をして立つ。 ・正しい姿勢で立つ・座る・書く。 ・次の学習の準備をしてから休む。 ・教室移動は並んで、静かに行う。 ＜筆箱のなか＞ ○鉛筆5～6本 ○赤・青ペン(鉛筆) ○消しゴム ○定規(15cm 程度) ・その他、授業で使うものは、先生と相談して持ってくる。 ・ノートに書くときは、下じきを使う。 ＜机の上＞ 消しゴム えんぴつ・赤青ペン・定規 教科書・タブレット ノート 下じき ＜タブレット使用のとき＞ ・机上を整理する。 ・消しゴムは使用しない。 ・タッチペンや指を使用する。 ・自分のパスワードを他人に教えない。 ・学習時のみ使用する。(小学校) ・担任、担当の指示に従って使用する。			・学習道具をそろえる。 ・授業が始まる2分前には席に着く。 ・始めと終わりのあいさつをしっかりと行う。 ・指名されたら「はい」とはっきり返事をして立つ。 ・正しい姿勢で授業を受ける。
話す	・「…です。」「…ます。」を使って話す。 ・みんなに聞こえる声で、最後までしっかりと話す。 ・みんなの方を見て話す。	・「…です。」「…ます。」を使って話す。 ・みんなに聞こえる声で、最後までしっかりと話す。 ・みんなの方を見て話す。 ・賛成・反対・付け足しなどをはっきりさせて話す。	・「…です。」「…ます。」を使って話す。 ・みんなに聞こえる声で、最後までしっかりと話す。 ・みんなの方を見て話す。 ・賛成・反対・付け足しなどをはっきりさせて話す。 ・理由をつけて話す。	・語尾までしっかりと話す。 ・場の状況や相手の様子に応じて話す。
聞く	・むだ話をしない。 ・話す人の方を見て、最後まで静かに聞く。 ・うなずきながら聞く。	・むだ話をしない。 ・話す人の方を見て、最後まで静かに聞く。 ・うなずきながら聞く。 ・集中して聞く。 ・聞き取れなかったことや、疑問点を質問する。	・むだ話をしない。 ・話す人の方を見て、最後まで静かに聞く。 ・うなずきながら聞く。 ・集中して聞く。 ・聞き取れなかったことや、疑問点を質問する。 ・賛成・反対・理由などを考えながら聞く。	・話す人の方を見て、最後まで静かに聞く。 ・自分の考えと比べながら、話の内容を正しく聞き取る。
書く	・鉛筆を正しく持って書く。 ・左手をそえて書く。 ・ていねいに書く。 ・マスの決まりを守って書く。	・鉛筆を正しく持って書く。 ・左手をそえて書く。 ・ていねいに書く。 ・行の中心に書く。 ・色分けして書く。	・鉛筆を正しく持って書く。 ・左手をそえて書く。 ・ていねいに書く。 ・行の中心に書く。 ・色分けして書く。	・速く丁寧に書く。 ・自分が再読して読めるようにポイント等に色分けして書く。
音読	・一字一字正しく読む。 ・はっきり、ちょうどよい速さで読む。	・語のまとまりに気を付けて正しく読む。 ・声の大きさや速さや間を工夫して読む。	・内容を考えながら、正しく読む。 ・自分なりに声の大きさや速さや間を考えながら読む。 ・抑揚を付けて読む。	・文章構成や内容などを考えながら正しく読む。 ・抑揚を付けて読む。

※特に学習入門期である小1・2年は随時、学習用具の点検を行い、学習環境の整備に努める。